



# Curtain Circulation City

風は空気の流れである。

建築という動かぬものに覆われた都市においても、空気は常に流れている。昼には海風が、夜には陸風が吹く。

海から来る風は、潮気や水分を含み、海を想起させる。森を抜けてくる風は、ひんやりと新鮮で、緑を想起させる。風は、ある土地/場所の空気(感)を、その先の土地へと運んでいるものと言える。

しかし、無機質で、排煙の立ち込める都市を流れゆく風は、そうしたものを運んでいるに過ぎない。



都市における代謝を考えると、風の流れるは呼吸にあたる。例えば人間が、新鮮な空気を求めるように、無機質な風しか流れていない現状の都市環境では、正常な呼吸が行われていない。



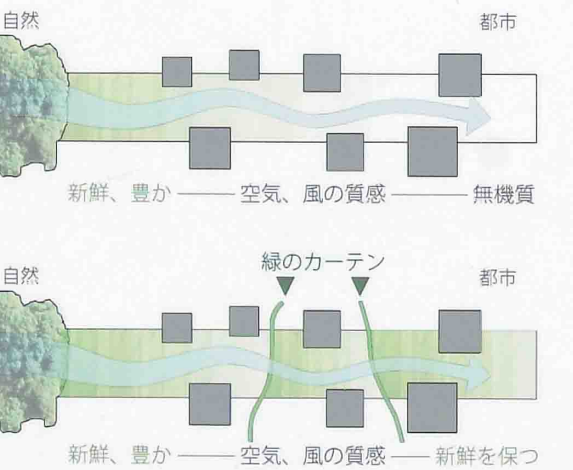
都市を吹き抜ける風を豊かにする。

そこで、動き回る緑のカーテンを纏った都市像を提案する。

それは、風に乗って流れていく雲のように、都市の中をゆったりと回り、吹き抜ける風に、新しい光、温度や湿度、生命を乗せて、運んでいく。



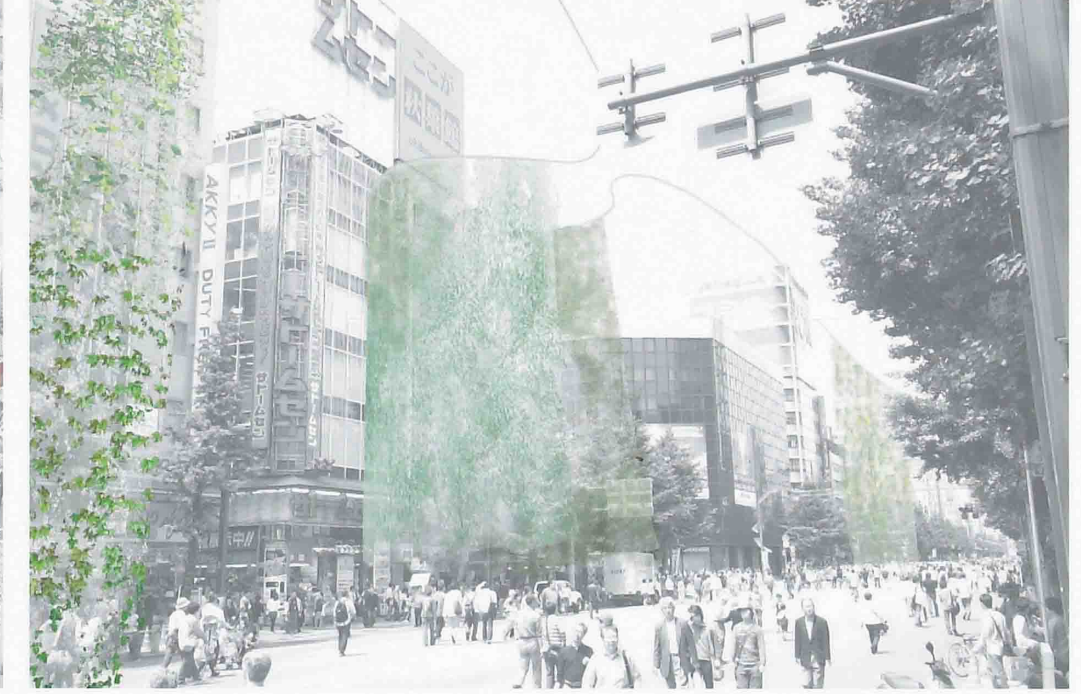
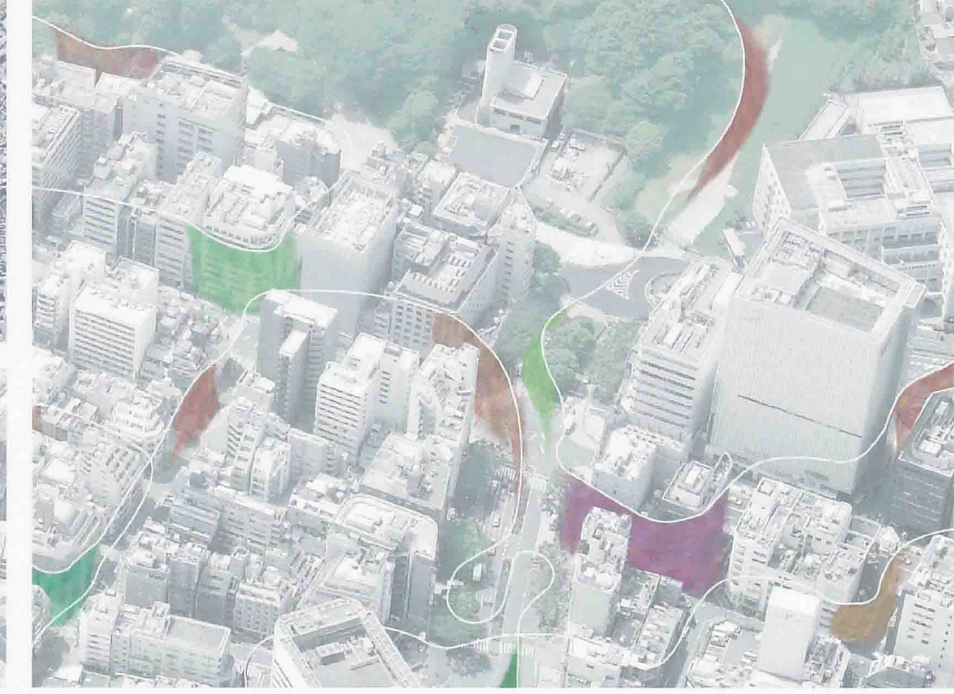
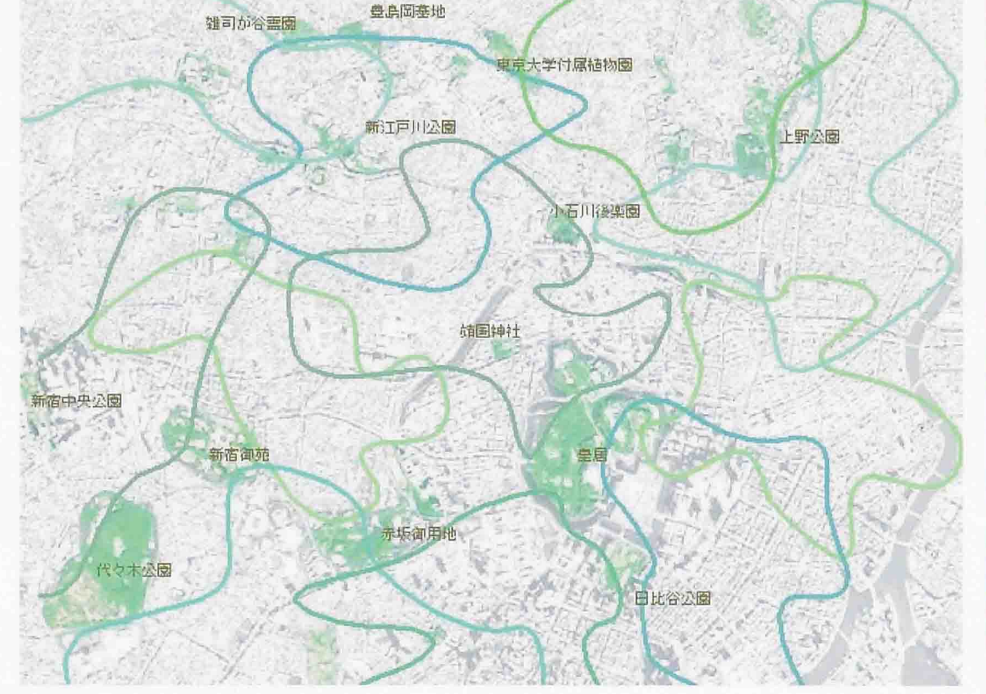
## 風の道、空気の本質



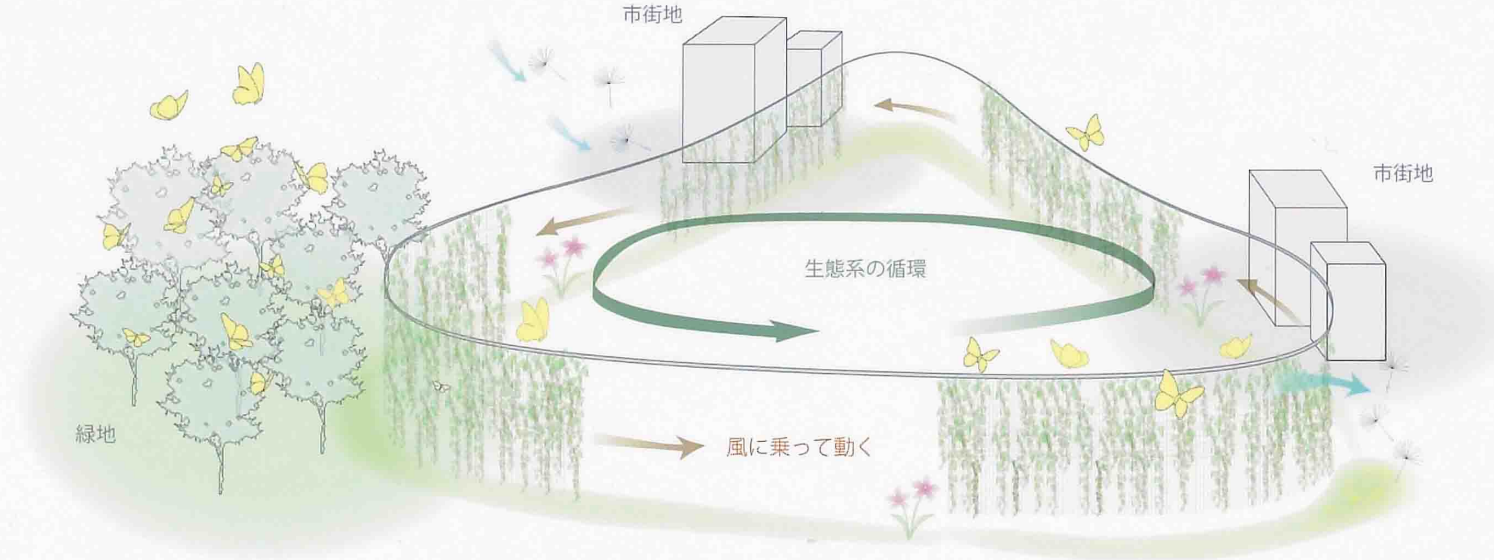
都市には風の道があり、都市の外から風が吹き抜ける。

自然を抜けてきた風は、新鮮で豊かな緑の香りを運んでくれる。しかし、風が都市を通過するに従い、緑の香りは次第に無機質なものと変わってゆく。

そこで、風の道の上に幾重にも緑のカーテンを張り巡らせる。緑のカーテンを通り抜けた風は、再び新鮮で豊かな緑の香りを取り戻す。そして都市には緑の香りが充満してゆく...

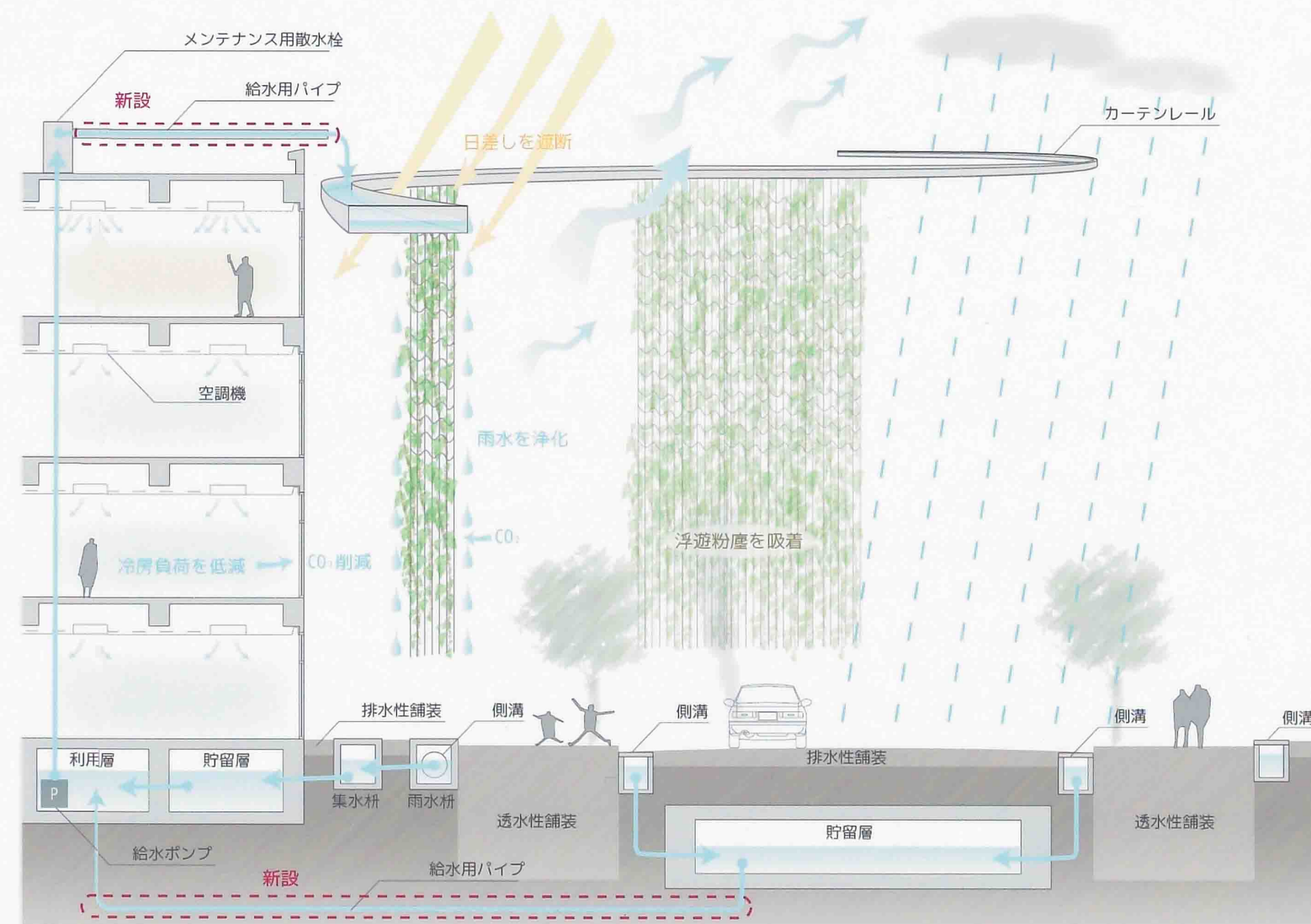


## カーテンが運ぶ生態系



カーテンが市街地や緑地に立ち寄りながらくると動き回ることにより、それぞれの場所のもつ生物・文化・植物・活動をカーテンがまとっていき、カーテンには生態系が形成され、立ち寄った場所の記憶を運ぶ媒体となる。

## 現れては、消える空間



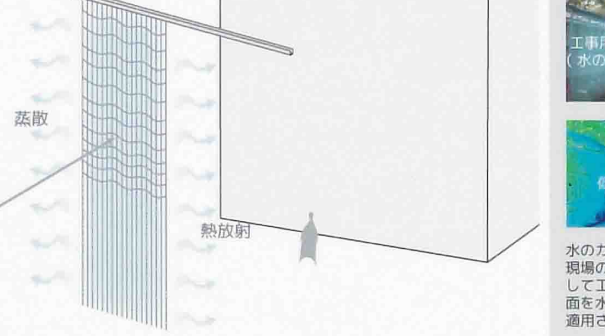
## 緑のカーテンによるエコシステム

■水の循環  
既存建築物の雨水再利用システムを活用し、植物への給水はカーテンレールを介して行う。新たな設備の設置は、2種類の給水用パイプのみである。道路下の貯留層は最大貯水量の1/3程度を常時貯水し、過水時にサブ水源として活躍する。雨水はカーテン内の植物に吸収されて浄化され、葉っぱから蒸散して大気へと戻っていく。

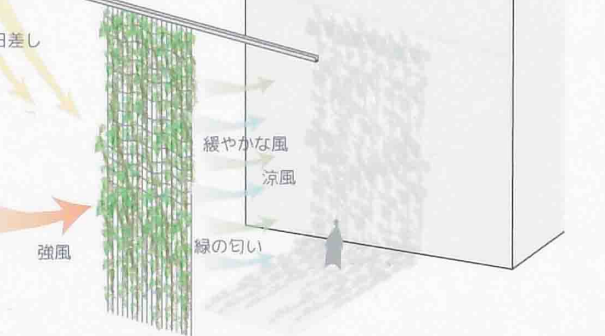
■COの削減  
緑のカーテンが建築物への日射を遮断することで、冷房負荷を低減し、エネルギー使用量を減らすことがCOの削減につながる。人々はエアコンを使わずとも快適な環境を享受する。また、カーテンに育つ植物の光合成によりCOが吸収され、固定される。

■浮遊粉塵の吸着  
緑のカーテンは道の上空を蛇行し、緑のカーテンの葉っぱが浮遊粉塵を絡めとることで、都市の空気を浄化する。

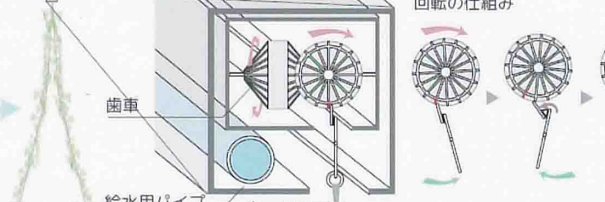
## 水のカーテンが作り出す微気候



## 緑のカーテンが作り出す微気候



## カーテンの緩やかな移動



カーテンのネットには上部のレールから水を染み出させる。毛細管現象により、水分はネットの隅々に行き渡り水のカーテンが形成される。

水分の蒸散と冷熱の放射により、水のカーテンの周りにはひんやりとした空気が満ちている。

同時に、水のカーテンは植物の根が張り付く床であり、植物はカーテンから水分を吸収する。

緑のカーテンは適切な密度の植物により、日差しを防ぎ、風を透過させる。

日差しは木陰となり、温か強い風は、涼しく緩やかな風となり、カーテンの内側には心地よい微気候が生まれる。

緑のカーテンを抜けた風は、ほのかな緑の匂いを含んで私たちの鼻をくすぐっていく。

カーテンは風にはためき、揺れ動く。その揺り子の運動をカーテンレール内の機構により、一方の回転力に変換する。その力はカーテンの推進力となり、目を凝らさねばわからないような速度でゆったりとカーテンは移動する。

